

# 第3回教育委員会（臨）

開会日時 令和6年 2月 2日（金） 午後 6時30分  
閉会日時 午後 7時05分  
開会場所 教育支援センター

## 出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐紀子
委 員	青 木 義 男
委 員	長 沼 豊
委 員	野 田 義 博

## 出席事務局職員

事務局次長	水 野 博 史	地域教育力担当部長	雨 谷 周 治
教育総務課長	諸 橋 達 昭	学 務 課 長	金 子 和 也
指 導 室 長	氣 田 眞由美	新しい学校づくり課長	柏 田 真
学校配置調整担当課長	早 川 和 宏	生涯学習課長	太 田 弘 晃
地域教育力推進課長	高 木 翔 平	教育支援センター所長	石 野 良 恵
中央図書館長	松 崎 英 司		

## 署名委員

教育長

委 員

## 【第一部】第3回教育委員会

午後 6時 30分 開会

教 育 長

皆様、こんばんは。

板橋区教育委員会、教育長の中川でございます。

開会に先立ちまして、私から一言ご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より、板橋区の教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

教育委員会は、教育長と教育委員4名で構成する合議制の執行機関であり、月2回ほど定期的に会議を開催し、教育行政の運営に関する基本的な方針や重要な事項について、審議・決定しております。

今回は、「身近な教育委員会」として、令和6年第3回の会議を開催いたします。

それでは、委員の紹介をいたします。

高野教育長職務代理者でございます。

青木委員でございます。

長沼委員でございます。

野田委員でございます。

本日は、4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから、令和6年第3回の教育委員会を開催いたします。

本日の会議に出席する職員、これは教育委員会事務局の職員でございます。水野次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長、金子学務課長、氣田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、太田生涯学習課長、高木地域教育力推進課長、石野教育支援センター所長、松崎中央図書館長、以上11名でございます。

本日の会議録署名議員は、会議規則第29条により高野委員にお願いいたします。

また、本日は、多くの方に傍聴にお越しいただいておりますが、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

本日の会議は、「全国学力・学習状況調査から見える「子どもたちに身に付けさせたい力」」を報告事項とし、意見交換を行っていきたいと思います。

それでは早速ですが、「全国学力・学習状況調査から見える「子どもたちに身に付けさせたい力」」について指導室長より報告願います。

指 導 室 長

皆様、こんばんは。教育委員会事務局、指導室長をやっております氣田と申します。どうぞよろしく願います。

それではこれから、全国学力・学習状況調査から見える子どもたちに身に付けさせたい力について、ご説明申し上げます。

本日、お話をさせていただくことですが、2点ございます。

まず、令和5年度全国学力・学習状況調査について。2点目が、本区の学力向

上施策についてでございます。

それでは最初に、全国学力・学習状況調査等ということで、こちらについてお話をさせていただきます。

全国学力・学習状況調査でございますが、文部科学省が実施する全国的な学力調査でございます。例年4月の中旬に、小学校第6学年と中学校第9学年が対象で実施されております。

調査の内容でございますが、小学校は国語と算数、中学校は国語と数学です。3年おきに、理科と英語の調査がございまして、今年度は英語の調査がある年でございます。また、児童・生徒及び学校を対象に、質問紙調査というアンケート調査も同時に実施されておるところでございます。

続きまして、全国学力・学習状況調査の問題について、少しお話をさせていただきます。

文部科学省が、これからの児童・生徒に求めている力を問題に反映しているというふうに言われております。問題を見ると、これからどのような力が子どもたちに求められているのかというのは見て取れるというようなことでございます。

本日、お手元に、問題の抜粋もお配りしているかと思いますが、そちらの方をご覧いただけますでしょうか。

それでは、具体的にどのような問題が出ているか、幾つか紹介をさせていただきますと思います。

まずは、小学校国語の問題文です。

画面に表示されている力が求められている問題でございます。お手元の問題用紙、少し画面は見にくいのですが、問題用紙のところにもあるかと思いますが、グラフなどから、必要な情報が載っておりまして、複数の条件を満たして、決められた字数で自分の考えを書く問題となっております。

ただ単に知識のみを問う問題は、ほぼ出題されておられません。

続いて、中学校の国語の問題でございます。

お手元のところで、こちらも小学校と同じように出題傾向が同じようなところになっておりますが、少し問題を見ていただけると分かるかと思うのですが、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして、自分で考えることができるか、そのようなことを問う問題となっております。

こちらも、ただ単に知識等を問うだけの問題ではないということになっております。

続いて、小学校算数の問題です。

こちらに少し表示させていただきましたが、底辺と面積を基に面積の大小を判断しということで、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題ということで、ただ単に面積を求めましようだけではなくて、お手元のところの問題にもあるように、単なる計算のみではなく、それをどうしてそういうふうに判断したのかという理由をちゃんと説明できる、説明をさせる、そのようなことが求められております。

続いて、中学校数学の問題例でございます。

こちらに表示させていただきましたが、事象について数学的に解釈しまして、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかを見る問題です。

こちらも、ただ単に答えを出すというのではなくて、解決の方法を自分の言葉で説明をするというようなことをございます。

お手元の問題のところにあるかと思いますが、少し下線を引かせていただきましたが、方法を説明しなさいとなっております。ア、イのどちらかを選んで説明しても構いません。また、実際に何メートルかを求める必要はありませんということで、もう回答を求める方法が問われていくということで、答えを書く必要すら、なくなっているというようなことが特徴でございます。

それでは、このような出題に対しまして、板橋区全体の平均正答率、こちらの方を示させていただきます。

まずは、小学校でございます。

青が国語科、赤が算数科となっております。

この横の方の0というところが全国平均正答率ということで表させていただきます。平成31年度から、現在のような知識とそれを活用する力を一体的に問う出題形式になっておりまして、結果ですが、年度によって若干の凸凹もありますが、全体的には上昇傾向にあるというのが本区の今の実態でございます。

続きまして、中学校です。

令和3年度は非常に正答率が高かったのですが、令和4年度に一度全国平均を割ってしまいました。そして、本年度は全国平均と同等まで回復をしているところでございます。

本区は、小学校、中学校ともに平成31年度までは、正答率の方が、残念ながら全国平均以下でした。ですが、そこからここ数年で全国平均を超えまして、現在のところでは、教科によっては東京都を超えているもの、または東京都に迫っているというような状況でございます。

続きまして、質問紙の調査でございます。

子どもたちの意識が分かる調査になっておりますが、こちらに今お示しさせていただきますのが、総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を集め整理し調べたことを発表しましたかという、そのような質問に対しまして、本区の子どもたちの回答は非常に他の全国、都と比べて高くなっております。

現在の学習指導要領で求められております、主体的、対話的で深い学びについての調査項目、こちらはそれを問うものでございますが、非常に肯定的な回答をした児童・生徒が多くなっているというのが本区の実態でございます。

次が、学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますかという質問でございます。

こちらは、学級会を含む学級活動という、そのような授業がございます。本区では、1月20日に板橋学級活動の日と称しまして、全校で学級活動、学級会の話し合いの授業を公開いたしました。この項目についても、東京都、全国に比べまして、板橋区は肯定的な回答が多くなっています。

これらの項目について、より詳しく分析をしますと、これに対して肯定的な回

答が多いほど学力が高いという相関関係も見られているところでございます。

続きまして、ICT機器の活用についてでございます。

前の学年のときに受けた授業で、パソコンやタブレットなどのICT機器をどのぐらい使用しましたかという、そのような質問でございます。

昨年度までの授業で1人1台端末のICT機器をどの程度活用したかというこの項目につきましても、東京都と全国に比べて板橋区は肯定的な回答が多くなっているという結果になっております。

それでは続きまして、2項目の本区の学力向上施策について、お話をさせていただきます。

本日は、板橋区授業スタンダードと読み解く力の育成の2点について、説明申し上げます。

まず、板橋区授業スタンダードの徹底でございます。

板橋区授業スタンダードと申しますのは、1時間の授業の中、1時間というのは小学校では45分間、中学校の方では50分間となっております。こちらの1時間、1回時間の授業の中で、児童・生徒が学習の見通しを具体的に立て、自分で問題解決に取組、考えたことをグループ等で共有して深め、授業をまとめたり、自分の学習を振り返ったりするという基本的な授業の流れでございます。

全国学力・学習状況調査でも、見通しを立てる、自分から取り組む、グループ等で話し合う、自分の学習を振り返るといった児童・生徒は学力が高いという結果が出ておるところでございます。

続きまして、読み解く力の育成です。

読み解く力というのは、教科書等の文章や図表から読み取ったこと、これを基にしまして、分かったこと・考えたことを相手に伝えるというふうに本区では定義しております。

こちらを各学校に示すに当たりまして、共通の言葉として、教科書等の文章や図表から読み取ったことということを入力というふうに言っております。そして、分かったこと・考えたこと、これをシンク。相手に伝える、これをアウトプットといった形で、読み解く力、インプット、シンク、アウトプットというような形で、学校の方には示しまして共通理解を図り、そしてただ知識を得て、そして考えるだけではなくて、その最後のアウトプット、表現するというところに、本区では力を入れています。授業等で進めているところでございます。

この読み解く力ということでございますが、児童・生徒がテキスト等から自分で学習を進める力である自己学習力というものと、自分で判断して決定する力である自己決定力、このようなものを身に付けることをめざしています。

義務教育9年間の授業の時間は、約9,000時間ございます。保幼小接続、小中一貫教育を進める中で、この義務教育9年間の授業の9,000時間の中で、読み解く力を地道にコツコツと育成することで、児童・生徒に確実に力をつけてまいりたいというふうに考え、今、全校で進めているところでございます。

雑駁ではありますが、本区の学力・学習状況調査の結果とそれから本区が学力向上に対して進めています施策について説明をさせていただきました。

今日は、様々な立場の皆様がいらっしゃるかと思います。学力、授業、家庭学習等について、日頃思っていること等をお話し合いしていただけたら幸いです。

私からは以上でございます。

教 育 長      ありがとうございました。

全国学力・学習状況調査から見える子どもたちに身に付けさせたい力について、指導室長より報告がございました。これにつきまして、各教育委員から所感を伺おうと思います。

まず初めに、高野委員、よろしくお願いします。

高 野 委 員    ただいまの氣田室長の説明の中で、全国・学力学習調査の問題が、知識を問う問題から、自分の考えを書く問題であったり、その判断の理由を説明する力を求める、そういう問題に変わっているということで、自分で考えて、そして自分から取り組んでいく力が求められているのではないかと感じました。

私は読み解く力の育成のところで、インプット、シンク、アウトプットという中で、自分で自己学習力、自己決定力というものを進めるために、こういう取組をしているということなのですが、自己学習力、自分で学習を進める力、自己決定力、自分で判断し決断する力、このようなものが学習だけではなくて、これから子どもが将来、大人になって生活していく、生きていく中でも、このような力は大変必要になってくるのではないかと思います。

また、これは一朝一夕に身に付く力ではないので、9年間を通して授業時間が9,000時間という説明がありましたが、その授業を通して、このような力を身に付けていくという板橋区の取組は大変、素晴らしいと感じております。この力を身に付けるためにも、各学校でしっかりとこれに取り組んでいただくことが大切ではないかなと思います。

小学校で同じように力を身に付けて、また中学校に行ったときにいろいろな小学校から子どもたちが集まって一緒に勉強するのですが、一貫性のあることで、中学校でまた、先生方もスムーズに授業を進めていくことができるのではないかと思います。

全ての学校で、板橋区授業スタンダード、それから読み解く力の育成を実施していただくことが大切だなと思っております。

教 育 長      ありがとうございました。

では、続いて青木委員をお願いします。

青 木 委 員    氣田室長、ありがとうございました。

非常に大事なお話だったと思うのですが、今、全国・学力学習調査の中で、幾つか例題も出てまいりました。特徴的だったのは、小学校の国語の、例えば国語

であるが図表を読み解くといった、今様の言葉で言うとデータサイエンスが入っています。

やっぱり、小学校の先生の立場になってみますと、実は若い先生にとっては、数学の授業の中で確率統計というデータサイエンス系っていうのは、実は抜けていた時期がある。最近になって、また復活したような話がありますので、実はこういう文科省の方針も考える方向に行くというのは、確かに正しいことだと思っているのですが、先生方にも、そこにうまく合わせて、そして学力を上げていくという、非常に柔軟性、それから常に自分のアップデート力が大変重要になってくるわけですね。

その中で、板橋区はやはり、先ほどの成果のように、先生方が自助努力をされて、常に自分の学習力というのは、アップデートしているというようなことがあろうかと思えます。

それと、今、私も中学校、高校の先生方といろいろな形で議論をしている中で、学力を向上させるということとはという話の中で、興味深い話を幾つか聞いてまいりました。

それは、数学科の先生が、中学や何かで数学を教えていると、実は一番学力が上がるのは過去問をやらせることだという話をしていて、ひたすら過去問をやらせていると数学は上がってくるという話をしていました。

ところが、国語というのはなかなか上がらないという話で、突き詰めて聞いてみますと、読み解く力というのを育成するというのに時間がかかるという話が出てきたわけですね。今日の結論というか氣田室長の中のお話でもあったとおり、やはりコツコツとやっていかないと、読み解く力というのは身に付きません。

これは非常に大事だと思っていて、これは例えば国語だけで読み解く力というのはいいかという決してそのようなことはない。当たり前なんですけど、社会に出ると、書類を書く、報告書を提出するといった形で文章力が当たり前ですけれど求められます。

残念ながら、私が行っている大学の中でも、計算や何かは物すごくできるのですけれど、レポートですとか論文を書かせるとなかなか書けない。書いてきたなと思うと、どこかからコピーペーストしてきている。脈絡がない。このような学生がやっぱり増えてきているところを見ますと、今、本当に読み解く力の育成というのが大事だと思っていて、それは大学4年間でいきなりつけられるものではないと思います。

ここに書いてあるとおり、義務教育9年間、9,000時間、これが必要だということで、読み解く力の育成に当たっては、当然、先生方も努力しているかと思うのですが、やはりご家庭でもご支援いただいて、読み解く力の育成というのはいかに大事か。社会に出て役立つか。それは、お父さんお母さんが一番よく存じ上げていることではないかと思えますので、ぜひともその辺のご協力をいただきたいなと思ったところです。

以上になります。ありがとうございました。

教 育 長      ありがとうございます。  
                  それでは、長沼委員、お願いいたします。

長 沼 委 員      氣田室長、丁寧なご説明ありがとうございました。

今日の説明は、日本の中での学力調査の結果ですが、国際的な調査、OECDが実施しているPISA調査が有名ですが、これを見ますと、日本は世界トップレベルを走っています。物によっては1位という項目もあります。年によって多少下がったりするものもありましたが。

実は、様々な国と比較すると、ずっと世界トップレベルを走ってきている国ってそうはないのですね。日本がそのうちの1つだっていることをまず押さえておきたいと思います。

一方で、教育にお金をどれだけかけているかという指標もありまして、これはGDP比で見ると、日本は世界で最低レベルなのですね。大体3%ぐらいと言われています。つまり、お金をかけていないで、世界トップレベルの学力を維持しているという稀な国の1つなのですね。ぜひ興味ある方はいろいろなデータを見ていただきたいと思います。

ということは、日本の子どもたちも頑張っているし、先生方が優秀で、そして地域や保護者の皆さんが全面的に学校に協力しているということなのです。世界と比較すると、実はそういう状況なのです。

その上で、板橋区の状況はというと、今お話があったように頑張っていて、子どもたちも先生方も保護者の皆さんも含めて、協力して頑張っているという姿が、今日のデータに表れていたのではないかと思います。

細かい点ですみません。3つだけお話しします。

まず1つ目ですが、お話にあったように、調査の問題自体が、単に知識を問うだけではなくて、分析をする力とか、その理由をしっかりと考えるという力を見ていくということで、知識・技能だけではなくて、思考力・判断力・表現力をしっかりと育成していこうという国全体の動きがあります。当然、問題もそういうものを見ていくような指標になっていますので、今、青木委員からもお話がありましたが、読み解く力が求められてくるということは、当然そうだと思います。

なお、連動して、大学入試の問題、先日の共通テストを見ても、大変長文で、全く傾向は同じなのですね。分析をする力とか読み解く力を見ていくってことなので、単に小学校、中学校の学力調査で行っているということに留まらず、全体的にそういう力を育てていこうということが、日本だけではなくて世界レベルでもそうになっています。このトレンドを見ていく必要があります。

そういう意味で、非常に板橋区は頑張っていたなというのが一点目ですね。

2つ目に、私が板橋区の小学校を見学させていただいたときに、1年生から端末を当たり前のように使っていたのですね。これはいいなと思いました。使いこなしていて、文科省いわく文房具のように使いましようということなのですが、本当にその姿でしたね。どんどん使いこなして、使いながら学力を高めているということもあって、端末の利用なども含めて考えていくのがよろしいのかな

というのが二点目です。

最後に三点目ですが、学力というとなつて個別的な、その子の学力を向上させていこうというふうに思いがちで、これがいわゆる個別最適な学びと言われていたものですが、一方で、協働的な学びも大事にしましょうということが文科省から言われてきています。個人個人の学力を伸ばすっていうことに視点が行きがちですが、それだけではなくて、全体、集団の力を育てていく、あるいは助け合っていく、学び合っていくっていう授業を構成していくことが大事だということがあります。このあたり、先ほどのお話にもあったように、学級活動の時間なども非常に板橋区は力を入れているということですが、こういう力は数字には表れない力も含まれています。今日のデータは数字に表れているもので、これは認知能力と言いますが、非認知能力と言われる部分ですね。リーダーシップとか助け合う力とか、ストレスをコントロールする力とか、そういう今社会で求められている力も実は大事で、これは相乗効果で伸びていくと言われていています。ですから数字を上げていこうということに汲々とするのではなくて、本質的な学びをしっかり捉えて、話し合い活動の学級の時間なども、板橋区ではとても力を入れていて、他の区からも注目をされている時間になっていますので、学力をトータルで考えて伸ばしていただきたいというのが、私からの要望です。

長くなりましたが、以上です。

教 育 長      ありがとうございました。  
                  それでは、野田委員、お願いいたします。

野 田 委 員      野田でございます。

私からは、保護者の立場から、学力向上に向けての板橋区の取組並びに家庭学習における状況について、これまで、各学校、小学校中学校等々を訪問させていただいて、現場を見ていきながら感じたことを皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

今日、氣田室長の方からご説明いただいた資料の中に、板橋区授業スタンダードの徹底というところと、読み解く力の育成というところのスライドの写しがあるかと思うのですが、そちらを見ながら一緒にお話を聞いていただきたいのですが、やはり、今、中学校小学校が連携しながら、中川教育長が打ち立ててくださっている、板橋区授業スタンダードを徹底して、授業が行われています。特に、コロナ禍で見通しを立てる、目当て・目標を立てて、自分で問題解決に取り組むというところで、それぞれの考え、自分の考えですね。意見をまとめていくということで、まず自己学習をしながら、考えたことをグループで共有する磨き合いという時間をつくって、自分はどう思って、あなたはどう思いますか、そのようなことを共有し合う。そして、全体に向けて、アウトプットになりますが、自分の学習を振り返りながら、周りと共有し合って、今日の授業はどうだったか。そのようなことを、各授業、各單元ごとに行っているというのが今の現場の状況

です。

その本質というところが読み解く力なのではないかということで、今日、皆さんも実際に読み解く力というのはどういうことが、本質はどうかということを考えてみていただければと思います。

今日、ここにも示していただいているとおりに、教科書の文章や図表から読み取ったことをインプットするということですね。何が言いたいのかというふうに一番分かりやすいのが図や表だと思うのですが、それを表しているのは何が言いたいのかということですね。そこにいかに目を通したときにインプットできるかということ。そこで何が分かったか、自分で何を考えたかっていうところがシンクだと思うのですよね。それで、その考えたことを相手に分かるように伝えるというところがアウトプットになってくるかどうか。これは、子どもたちのみならず、私たちの日常生活にももちろん結びついていることで、全ての生活において、私生活においても、この読み解く力というのは非常に大事なのではないかとここで、今回、取り上げられたテーマでもあるかと思っております。

ここで家庭学習について、少し私の考えを述べたいと思うのですが、まさに家庭学習も一緒に、学校に行っていれば勉強してくるという考えではなくて、今はもう保護者も一緒に考えてアウトプットする。私はこう思いますよ、あなたは どう思いますかというような意見を交わしながら、ともに学習していくというのが家庭学習の理想であって、学校だけではなくて、家庭でも板橋区事業スタンダードに沿った考え方で、一緒に教科書を読んで考えていくということ、今一度、考えてみていただけないかなと思います。

来年度は、小学校の教科用図書が改訂されるに当たって、その選定に当たって、やはりその教科書を選定していくに当たって、家庭でも、保護者の皆さんと教科書を読みながら自学自習ができるように、足りないところは補える、さらに先に延ばしていく、そのようなところで十分に活用できる教科書、新しい先生が、その教科書を使えば、しっかりした授業ができる教科書ということで、教育長を中心に、教育委員の先生方とともに、準備していったところでもあります。

ですので、このような教科書を活用しながら、全ての子どもたちに、格差がなく平等に勉強できる状況が板橋区では整備されておりますので、このようなところを十分活用していただきたいと思っております。

この後、皆様方のご意見もいただくのですが、最後、アウトプットがあると思うのですが、今日はそこを少し心に留めておいていただきたいのですが、長く喋るのではなくて、いかに言いたいことを相手に分かるように伝えるか、要するに物事の本質をどう伝えるかというところをシンクしていただきたいと思えます。そこでアウトプット、今度は聞かれた方たちが、なるほどねと言えるような、最後、発表をしていただければと思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

教 育 長      ありがとうございます。

その他の委員の皆様から、つけ足し等あれば、お聞きしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

最後、私の方から、教科書について1つあるのですが、読み解く力、これは私も実際にやってみたのですが、意外に読めないのですよ。思ったより子どもたちって、教科書を使っているようで使っていないという部分があって、授業でもそうなのですが、教科書をお家で、例えば国語はよく読んでいるのかもしれないですけど、社会とか理科あるいは算数・数学といったものを、読んでもらうのは少し恥ずかしいかもしれないのですけれど、意外に思ったより、つまずいたり読めなかったり、特に社会科などは難しい単語がどんどん入っていますから、その辺をお家で試してみると面白いと思います。

読み解く力というのはそういう中で、例えば、これとかそれという指示代名詞は一体何を意味しているのっていうことを読み解いたり、それから主語とか述語、これは意外に子どもたち弱いのですね。毎年の学力調査の結果としても、点数が低くなっているのですが、主語とか述語って一体どれなんだろうとかということ、これも意外に難しい、易しそうで難しい。

それから、文章が同じようなことを書いてあるけれど、これは同じような意味なのか、それとも違う意味なのか。同義文判定なんて言い方も、少し難しい言葉で言っていますが、このようなこと。それから、先ほど来出ている表やグラフから読み取っていく力。それから、定義とか定理というような、決まったことをきちんと頭の中で反芻していく。そういう力を育てていくことが、読み解く力の本質、つまり教科書に書いてあることをしっかりと理解する。教科書を使って教科書で学ぶ、子どもたちが学ぶんだと。そういうものを、実は板橋区では読み解く力としてめざしています。これが基礎的な読解力というような言葉で表現しているのですが、そのようなものも含めて、今、教育委員の方から話がありましたことを踏まえて、この後、皆様方で、グループディスカッションを行ってほしいと思います。

それでは、以上をもちまして、本日の身近な教育委員会、第一部を終了いたします。ありがとうございました。

休憩5分を挟みまして、第二部のグループディスカッションを行いたいと思います。ありがとうございました。

午後 7時 05分 閉会